

（右）本日午後、岡橋治助時議會に出席。監査役をも大株主の監査役の役改選の件を報告され、成度此段の成度候尙又は不取敢御換ては被化して解右告書可及否次郎

山の虎列刺。岡山七月一日午後、同水産博覧會開催田中芳男して水產上の談話となし只今

○ 萩原軍艦一隻博多へ向け搬運せり
○ 児玉陸軍次官 駿府七月一日午後特報
○ 見玉陸軍次官は本日午後神戸丸にて來着せり明後
日同船にて長崎に向ふ筈なり

○ 福井の洪水 鹿児島七月一日午後特報
○ 連日雨脚甚だしく洪水となり諸川氾濫氾濫の箇所あり
○ 京都府會 京都七月一日午後特報
○ 第二回水産博覽會計賀殿田中芳男氏は昨六月三十
來着して水產上の談話をなし且今(九時)出發山田
向ふ

○ 原口鐵道牧監 鹿児島七月一日午後特報
○ 田中芳男氏 1904年市七月一日午前特報
○ 昨六月三十日當地に一名の虎列刺患者を生じたる
付送病院を設けたり

○ 時事新報

○ 岡山の虎列刺 鹿児島七月一日午後特報
○ 昨六月三十日當地に一名の虎列刺患者を生じたる
付送病院を設けたり

○ 東京日々新聞の
航海獎勵法論

日々を新聞の航海獎勵法論は相變らず當局者辨護論なり
その所見は自ら言ふを據るものゝ多く又言ふ能は
るものゝ如く日々が自から法の不備欠點と認めて論
たる其論に對する我輩の反論に就ては曾て一言の答
只左の如く述べ去りたるのみ

航海事業の保護獎勵は經濟上及び財政上的一大問題
にして其利益得失は容易に論断し得べきものならず
之に就ては吾輩平生の宿見より他日適當の時期に於
て之を江湖に披瀝する所あるべしと雖も夫の航業
獎勵法に至ては吾曹の見て以て缺點を指すべき所に關
するもせざるも他人の勝手なれども自ら平生の宿
からざる所以て吾輩は其不備の條件を指するに當
隨せざりき然れども經濟及び財政の大體に通ぜざ
のみならず現在の事實及び制度を解せざる時事報
報の反對論には同意する能はざるなり

我輩は強ひて日々の同意を求める所にするもの非ず
するもせざるも他人の勝手なれども自ら平生の宿
のりなりと雖しづながら此際に一言を否ひて置に同意
の能はずと云ふに止む甚だ物足らぬ心地されども致
ならし其宿見なるものは何れ他日適當の時機に於て江
湖に合格する船舶を先づ二十七八隻存するものと
して打算したるなり云々と日々は記載せり既に獎
勵法に於ては吾輩の意見を承認せしめられ候
所行はんどしがら現在の數に由て打算するとは何
ぞと云ひたるを咎めて然らば何と採算として打算
の人々と共に被る／＼承るみと可し

二十九萬圓を相當と認めざるに相違なし若し然らず
とせば何故に其過少なるを論せざりしぞ豫算調査の如きも
時に在りては人皆二十七八萬の豫定額として信頼
して物語額を裝ふ人々の放言の如きは一顧たり得然
ると信ヒたりと雖も其後市場の氣配豫想外なるが爲め
め今日に於て豫算の不足を指摘するに至りしなり而て
時事新報は自から其豫想に反したるの謡を蔽はんや
して豫算額を装ふ人々の放言の如きは一顧たり得然
外なきのみ我輩が相當と認めたるや否やは平常時事報
報を讀むものゝ苟も疑はざる所今更言を費すの要
なし日々の所謂市場の氣配豫想外なるが爲め自からせ
んと信ヒたりと雖も其後市場の氣配豫想外なるが爲め
豫想に反したる謡を蔽はんとするとは取りも直さず其
辯護の主人たる當局者と記者自身との事に外ならざ
可し如何に周章狼狽の餘りとて蔽る由縁もなきに恰
無理情死の眷族へとは甚だ迷惑の至りなれば少しく
を諭にして實めては他の分別ぐらは付くやう致
たきものなり又我輩が當局者と記者自身との事に外なら
ざる金を受けるものは當時現在の船舶に限ると豫算したて
は誤りなりとの言を非難して豫算外の獎勵金と與へ
るの規定は何處にあるか且つ此豫算は廿九年度に施行
する者なれば次年度の豫算には如何に増加するも妨
しそと云へり本外我輩に於ては強て其誤りを咎などす
に非ず只當局者が斯くの如き詰めたる豫算を立てて
がら今更に豫算外の盛況に驚き造船規程などを面倒
して獎勵金の支出来を名しまんとするが如きは斷じて
す可らざる處なりとの趣意なれば若しも當局者が遺失
れば郵船社の持船中にては日々の認める如く獨り其
と譲くるときは合格を得る船舶はなきに至る可しと
ひたるに就き日々は頻にくゞしく論ずれども詰ま
制限の程度論にして果して二重底の完全なるものと明
るも之を全通二重底にて差支へなきとなれば其制
限は極めて寛大自由の者にして我輩に於ても異論など
而もて日々は二重底の論に付き日本の國法に依り二重
底と名くる者の何たるは船籍に依りて之を論ずるの外
なきに時事新報の迂闊なる現在の船籍すら調査せず
て無稽の言を爲し云々など妄言すればも何ぞ國らん既
く妄言する日々自身みそから迂闊無稽を免れざる
のなり日々が前に記したる北洋、渤海、伊勢の三隻と
あるは全くの間違ひなり日々記者の如きは只管政府に
依頼して政府の事とわれば一時の間違ひなしとして
たるものならんなれども右の三隻の如きは實際全週二
重底に非ず船籍中に北海丸などを全通二重底と記載
のからんしなるを文書の言吏としてたゞして有るが

- 日露協商　目下世間、外交の権力をにして委しく知る爲めの情報中、改めての報道の事、全保護の事、土蔵税關の事、なれども其方法手段に至り外に知るものなし併し山縣事も撫て判然可しと云ふ。
- 李範晉の轉任　國王の朝鮮政府に威風を立てるに於ける公使に轉任して外に出る事を躊躇したる出来事なれば、も改革上の意味あるに非ず。も無く組合意に任せ事など居る漸く久しうに隨ひ時上の意味なく事の次第唯組野の舉動寡からず公使情に堪へずなりければ米國ものにて詰り狂人を館外に居るの遠くよし。
- 金剛艦の威海衛着　は一昨三十日威海衛に入港
- 板垣内務大臣の歸國　行は一の脚を経て氣仙沼にて歸京の途に就くよし。
- 宮内官吏の昇等　足利氏は越後二等に丹羽式部官、杉侍醫、川上主馬助の三氏馬場帝室會計審査官の兩氏の沙汰ありしよし。
- 無人島の探検　北海内外に一の無人島あり、今が今度國文部の吉田昌太郎志者と共に之を發し其結果事業に着手する。前途にて目方へ向けて出立せり。
- 石黒軍醫總監　は日本席のため來る六日出立するべし。
- 特派員の歸社　宮城したる本社特派員宮木芳之五月十日(初發日)より六月に三千二十九名より内死一百五十九名、治癒一千四百七十九人、在留する日本人數は百九十九人。
- 香川縣の回歸熱

の事に非難して記者自殺
の云々する日露戰爭の事は
と得失聞く所に據れ。其
の事、國王達官の安
信機密の事等あるよし
は事に關したる當局者の
が歸朝の頃には其邊の
露國公使館内に移して今
し李鴻章が一朝米國駐在
事となりたるは一時世の耳
事の次第に駐點すれば確
九來範吉は其人となり思
為するものなれば露公使館内
事に狂して人を罵るなど
洋航海中なる軍艦金剛
ことよし

This image shows a single, elongated, dark object, likely a piece of debris or a small insect, positioned horizontally across the frame. The object is dark brown or black and has a slightly irregular, segmented appearance. It rests on a light-colored, textured surface that appears to be concrete or asphalt. The background is mostly out of focus, showing some faint vertical lines and shadows that suggest an outdoor urban environment.